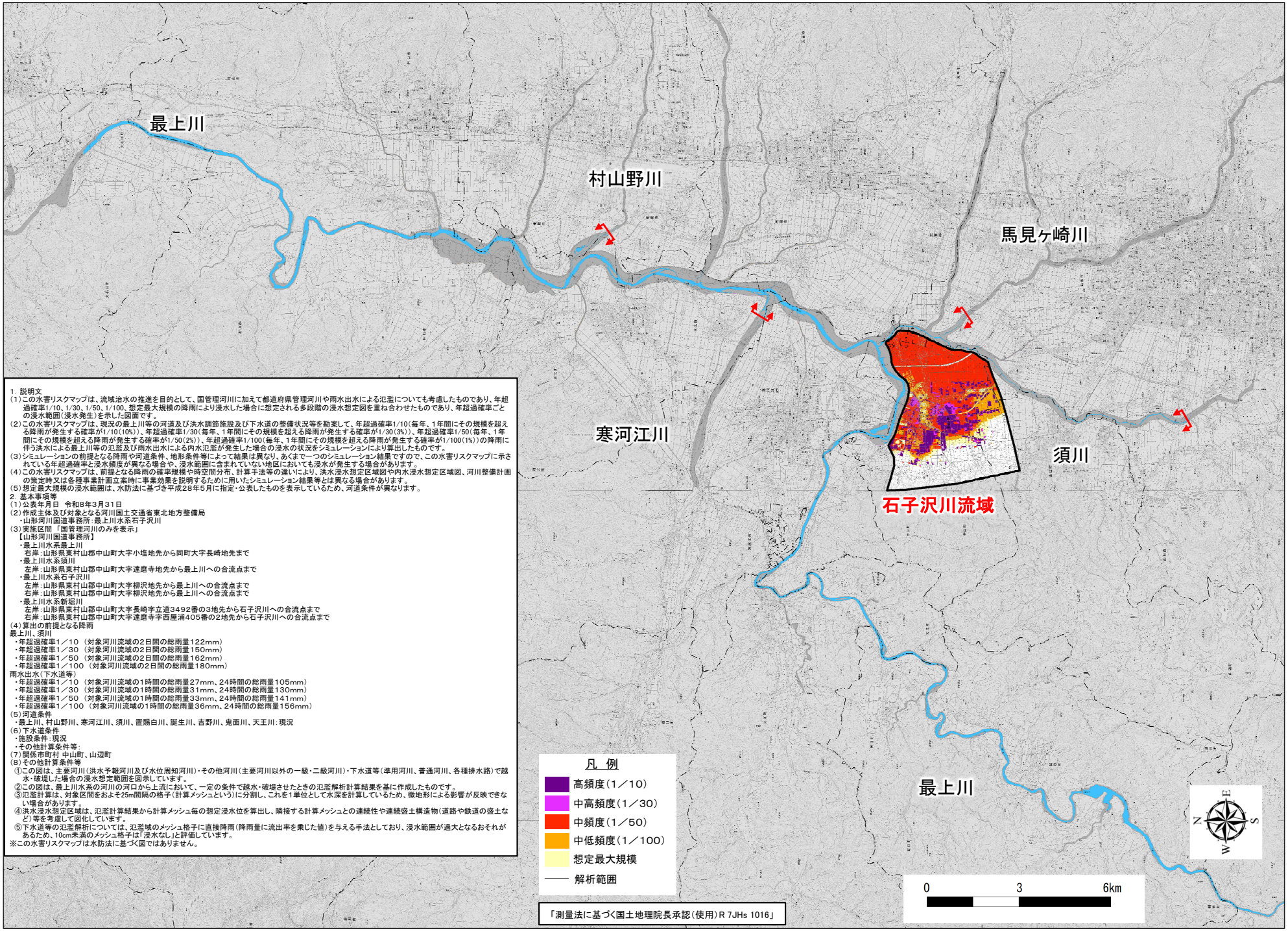
最上川水系最上川（石子沢川流域） 内外水統合の水害リスクマップ【中期整備河道】

浸水が想定される範囲



1. 説明文
（1）この水害リスクマップは、流域治水の推進を目的として、国管理河川に加えて都道府県管理河川や雨水出水による氾濫についても考慮したものであり、年超過確率1/10、1/30、1/50、1/100、想定最大規模の降雨により浸水した場合に想定される多段階の浸水想定図を重ね合わせたものであり、年超過確率ごとの浸水範囲（浸水発生）を示した図面です。
（2）この水害リスクマップは、現況の最上川等の河道及び洪水調節施設及び下水道の整備状況等を勘案して、年超過確率1/10（毎年、1年間にその規模を超える降雨が発生する確率が1/10（10%））、年超過確率1/30（毎年、1年間にその規模を超える降雨が発生する確率が1/30（3%））、年超過確率1/50（毎年、1年間にその規模を超える降雨が発生する確率が1/50（2%））、年超過確率1/100（毎年、1年間にその規模を超える降雨が発生する確率が1/100（1%））の降雨に伴う洪水による最上川等の氾濫及び雨水出水による内水氾濫が発生した場合の浸水の状況をシミュレーションにより算出したものです。
（3）シミュレーションの前提となる降雨や河道条件、地形条件等によって結果は異なり、あくまで一つのシミュレーション結果ですので、この水害リスクマップに示されている年超過確率と浸水頻度が異なる場合や、浸水範囲に含まれていない地区においても浸水が発生する場合があります。
（4）この水害リスクマップは、前提となる降雨の確率規模や時空間分布、計算手法等の違いにより、洪水浸水想定区域図や内水浸水想定区域図、河川整備計画の策定時又は各種事業計画立案時に事業効果を説明するために用いたシミュレーション結果等とは異なる場合があります。
（5）想定最大規模の浸水範囲は、水防法に基づき平成28年5月に指定・公表したものを表示しているため、河道条件が異なります。
2. 基本事項等
（1）公表年月日　令和8年3月31日
（2）作成主体及び対象となる河川国土交通省東北地方整備局
・山形河川国道事務所：最上川水系石子沢川
（3）実施区間 「国管理河川のみを表示」
【山形河川国道事務所】
・最上川水系最上川
右岸：山形県東村山郡中山町大字小塩地先から同町大字長崎地先まで
・最上川水系須川
左岸：山形県東村山郡中山町大字達磨寺地先から最上川への合流点まで
・最上川水系石子沢川
左岸：山形県東村山郡中山町大字柳沢地先から最上川への合流点まで
右岸：山形県東村山郡中山町大字柳沢地先から最上川への合流点まで
・最上川水系新堀川
左岸：山形県東村山郡中山町大字長崎字立道3492番の3地先から石子沢川への合流点まで
右岸：山形県東村山郡中山町大字達磨寺字西屋浦405番の2地先から石子沢川への合流点まで
（4）算出の前提となる降雨
最上川、須川
・年超過確率1／10（対象河川流域の2日間の総雨量122mm）
・年超過確率1／30（対象河川流域の2日間の総雨量150mm）
・年超過確率1／50（対象河川流域の2日間の総雨量162mm）
・年超過確率1／100（対象河川流域の2日間の総雨量180mm）
雨水出水（下水道等）
・年超過確率1／10（対象河川流域の1時間の総雨量27mm、24時間の総雨量105mm）
・年超過確率1／30（対象河川流域の1時間の総雨量31mm、24時間の総雨量130mm）
・年超過確率1／50（対象河川流域の1時間の総雨量33mm、24時間の総雨量141mm）
・年超過確率1／100（対象河川流域の1時間の総雨量36mm、24時間の総雨量156mm）
（5）河道条件
・最上川、村山野川、寒河江川、須川、置賜白川、誕生川、吉野川、鬼面川、天王川：現況
（6）下水道条件
・施設条件：現況
・その他計算条件等：
（7）関係市町村 中山町、山辺町
（8）その他計算条件等
①この図は、主要河川（洪水予報河川及び水位周知河川）・その他河川（主要河川以外の一級・二級河川）・下水道等（準用河川、普通河川、各種排水路）で越水・破堤した場合の浸水想定範囲を図示しています。
②この図は、最上川水系の河川の河口から上流において、一定の条件で越水・破堤させたときの氾濫解析計算結果を基に作成したものです。
③氾濫計算は、対象区間をおよそ25m間隔の格子（計算メッシュという）に分割し、これを1単位として水深を計算しているため、微地形による影響が反映できない場合があります。
④洪水浸水想定区域は、氾濫計算結果から計算メッシュ毎の想定浸水位を算出し、隣接する計算メッシュとの連続性や連続盛土構造物（道路や鉄道の盛土など）等を考慮して図化しています。
⑤下水道等の氾濫解析については、氾濫域のメッシュ格子に直接降雨（降雨量に流出率を乗じた値）を与える手法としており、浸水範囲が過大となるおそれがあるため、10cm未満のメッシュ格子は「浸水なし」と評価しています。
※この水害リスクマップは水防法に基づく図ではありません。